

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

学生たちの推薦図書

鈴木 そよ子

今年度の初回の授業で、次の①②③の企画を提案した。1人の持ち時間は3分、合計約10分。

- ① 好きな本や映画、曲など、様々なものの紹介
- ② 自分の体験や聞いた話など、ちょっといい話
- ③ 当用漢字の範囲内で漢字3文字の書き順の確認

授業内容に即した議論や発表を採り入れることはもちろん大切だが、その素地として、学生が自分自身を表現でき、互いに個性を感じ取るきっかけになるような機会も授業に盛り込みたいと考えた。

教員採用試験二次試験では模擬授業とそれを踏まえた討論や個人面接等、短時間に自分を表現する力が試される。それほど自己表現は重視されるが、学生の苦手な点でもある。

2年次必修の教職課程科目「教育課程論」で、学生は①②③のいずれかを選び、私は学籍番号順に担当日を決めて一覧表を用意した。授業のどの位置にこの企画を置かかは、クラスごとの希望で決めた。そして、この企画は現在も進行している。

3企画のうち①「紹介コーナー」についてみると、学生たちは、原稿やスライドを用意して、その本を薦める理由や自分との関わり、そして、内容紹介をしてくれる。ネタバレにならない程度の、でも興味をそえられる紹介に、思わず読みたくなる。

紹介された本は、自分の人間関係づくりの指針になっている本、幼い頃兄弟で想像をめぐらせた絵本、小学校の頃からシリーズを読み続けている本、怖がりの人でも読める切ないホラー小説、時間が逆行する中で恋愛小説、数学にチャレンジする少女たちの物語、過労死問題と若者の生きざまを描く小説、話題になっているコミックなど。

『星の王子さま』『ハリーポッターと呪い子』『火花』のような有名どころもあるが、その一部を次に挙げる。

- ・村上龍『インザ・ミソスープ』幻冬舎文庫
- ・市川拓司『そのときは彼によろしく』小学館文庫
- ・岸見一郎・古賀史健『嫌われる勇気 自己啓発の源

流「アドラー」の教え』ダイヤモンド社

- ・知念実希人『優しい死神の飼い方』光文社文庫
 - ・ゲルダ・ミュラー『みえないさんぽ』評論社
 - ・北川恵海『ちょっと今から仕事やめてくる』メディアワークス文庫
 - ・七月隆文『僕は明日、昨日のきみとデートする』宝島社文庫
 - ・恒川光太郎『夜市』角川ホラー文庫
 - ・アガサ・クリスティー 加島祥造訳『ひらいたトラップ』早川書房
 - ・岩井恭平『サマーウォーズ』角川文庫
 - ・鬼頭莫宏『ぼくらの』小学館
 - ・結城浩『数学ガール』SBクリエイティブ
 - ・ロミオ・ロドリゲス Jr.『97%の人を上手に操るやばい心理術』SBクリエイティブ
- 他にも、様々な分野の図書が紹介された。

ある学生は、小学校の「10分間読書の時間」に読み続けるうちに本が好きになったという。そういえば、文科省の方針のもとで、全国の学校では10年前から朝の「読書の時間」を継続している。年月を経て、若者たちに読書の芽が育っていることを実感した。

せっかくなので、これらの本が図書館にない場合は、購入希望を出し、学生たちが読みやすいようにした。そして、私もこれまで読んだことのないジャンルの本を読み、異次元の世界に迷い込んだような感覚になったり、身の回りに起こっていることを考え直してみたり、今の自分を変えるポイントを見出したりと大いに刺激を受けている。

3企画を続けてみて、毎回異なるメンバーでのグループ作業の場面や共同発表の場面で、学生たちが学科に関係なく、スムーズに人間関係を作れるようになっていくと感じる。そして、私自身も名前や自己紹介の内容以上に、学生個人やその人柄を捉えられていることに気づく。また、これから自己表現の芽が育っていくのを楽しみにしたい。(所員/すずき・そよこ)

神話に見える移動と祭祀

廣田 律子

私の研究対象であるヤオ(ザオ)族と民族分類されている人々は、文化的には多様な民族集団から構成されている。ヤオ語系のミエン語を話すミエン・ヤオとヤオ語系のキン・ムン語を話すランテン・ヤオが代表として挙げられる。

大半は中国南部地域からベトナム北部・ラオス北部・タイ北部など東南アジア大陸部に居住し、一部は1970年代のインドシナ難民としてアメリカなどにも移住分布し、およそ330万人に達する。

移動を繰り返し広範囲に分布することになった主な原因はヤオ族が山を利用し農耕を営む、焼畑耕作を生活の糧としていたことが挙げられる。

ミエン・ヤオ族の間には、長年にわたる移動を示す内容の共通する漂洋過海神話という伝承がある。この伝承は、漢字を用いて記述され、文書として大切に伝えられている。神話伝承は重要な儀礼において掲示されたり、読誦され節を付け歌唱されたりする。

この漂洋過海神話では、かつてミエン・ヤオ族が海を渡り移動しようと試み遭難した際、ビエンフンを代表とする三廟聖王に救いを求め、願を掛け、無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行うようになったとされる。神々とミエン・ヤオ族との契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主ビエンフンに象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどきの祭祀が続けられてきたのである。

大願成就の祭りは、広い意味での祖先への祭祀である。この祭りにおいてこの漂洋過海神話は歌唱される。ほかにも神話叙事および歴史叙事である『大歌書』(いわゆる『盤王大歌』)が詠唱される。そうすることでミエン・ヤオ族自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先をたたえ、綿々と継続されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀の意義が伝えられる。

祭祀においては、祭壇の供物にまで民族の漂洋過海神話が表現され、豚の頭の上に載せられた肉片は、大時化の際船の舳先で無事を祈るのに使ったハンカ

チを表すとされる。さらにしっぽは船の櫂、腸は接岸のロープ、肝臓は船の碇、脂肪は帆布を表すとされる。豚の上に積み重ねられた笹に包まれたちまきは帆を表す葉でくるまれているとされ、その上に挿された旗は救世主盤王の好きな36種の花を表すとされる(図1)。神話と歴史が歌われる儀礼空間には神話世界が表現され、自民族のアイデンティティーを五感で認識する場となる。

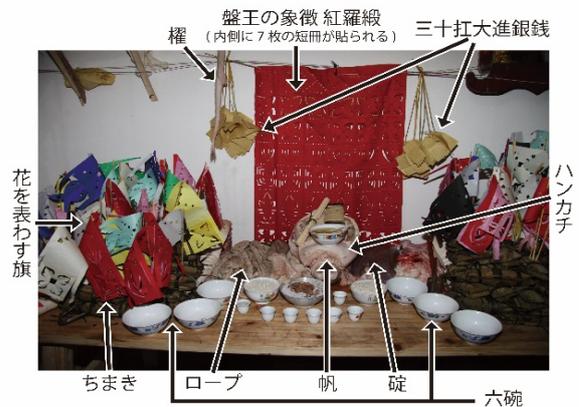


図1 盤王願の祭壇 漂洋過海神話を表す豚の供儀

先祖への祭祀儀礼を続けるために、ミエン・ヤオ族の男性は、必ず祭司となる通過儀礼を経なければならぬとされる。この通過儀礼は灯明をともすことでそのレベルが表され掛灯(クワタン)と称されるが、最初の段階では、3灯明がともされ、最高は12灯明がともされランクアップが図られる。姓や地域によって灯明の数は異なるが、最初の段階の3灯明をともす通過儀礼では、祭司としての名である法名が与えられる。さらに祭司としての法術が伝授され、祖先を祭る権利が付与され、同時に法名が祖先の名が連ねられ記述されている家先単に記され、死後祖先として祀られる権利を有することになる。

遠く離れ居住する中国、タイ、ベトナムのミエン・ヤオ族が実施する通過儀礼の内容はほぼ一致している。これは儀礼を進めるために使用される漢字テキストの経文の一致と不可分といえる。漢字テキストは儀礼の実践の中でテキストごとに異なる音訓を付し、また曲節をともなって読誦され、複雑な儀礼知識といえる。数百年かけ漢字文化圏を越え分散

移住をしながらも漢字テキストを継承し続け、それに基づき儀礼の実践を続けてきたことは驚くべきことである。今後移住先で日常生活において漢字を使

用しない生活をする人々の儀礼知識の継承システムを解明する必要があると感じている。

(所員／ひろた・りつこ)

スポーツと道徳

嶋谷 誠司

最近のスポーツに対する世論が、現場の経済至上主義にますます拍車をかける傾向にあることへの違和感があります。経済至上主義？、過去では勝利至上主義という言葉が流行りましたが、それはプライドをかけた目標でした。今日、勝つことにより引退後の生活につながる時代になり、勝利が選手のセカンドキャリア又はコーチ自身の地位保全や新たなステップにつながるため、彼らにとっての勝利の意味も少し変わったということです。

スポーツマンシップ論の授業では、スポーツ場面の事象に対して道徳的に考えることをトレーニングした後、他の事例を道徳的に考え、リアクションペーパーに意見させます。すると当初は「勝敗を決めることがスポーツ本来の姿」だから、勝つことにこだわることは当たり前だ、という世論に流されてきた意見が大多数を占めます。

「ゲーム」としてのスポーツの起源と、「教育教材」として用いられた歴史、を学んだ後に「何のためにスポーツをするのか」を考えてもらおうと、意見が分かれ始めます。

ここまで書き終えたところで、日大アメフトの問題が起きました。

連日の報道から何のためにスポーツをするのか、スポーツを通して大学で何を学ばせようとしているのか、という哲学が見られないことを残念に感じます。メディアのコメントも「スポーツマンシップ」「フェアプレーの精神」の語意を正しく理解しているとは思えないものも多くあり、せめて義務教育での保健体育の教科書で半ページでも語意を説明してくれさえしたら、コメントも正しく表現されるでしょうし、大学などの教育現場でのスポーツがこうした結末を生むことにはならない可能性もあったと思

います。

正課授業と課外活動という言葉で古くから分類されていることも見直すべきです。本学でも「課外活動は大切な教育活動の一部です」と表現しながらも、だれが教育的に責任を取るのか不明確な姿を残しています。教育課程の中に組み込むべき時でしょう。

日大の勝利主義的体勢が生んだと思われるこの事故は、いつか何処かで起きると思っていました。たまたま日大、たまたまアメフトだっただけ、と思っています。他競技でも審判に対する態度や相手選

手に対する態度、場合によっては勝つために指導者が相手選手を貶すことさえ見られる時代だからです。どの様な文化もそうでしょうが、それを利用する人間の意識や

目的によっては、良い使われ方にもなりますし人間を墮落させることにもなりかねません。

こうした事態を予期して、平塚体育会の学生と指導者には、生活態度の良くない人間が勝利してもましてや競技中の態度が良くない人の勝利も、全く評価に値しないと刷り込みしています。その徹底の為に 2006 年から構想と協力体制を求め、今年で第 7 回目の「体育会倫理研修会」を開催しています。平塚全部活の全部員と全指導者が一堂に会し、同じ価値観でスポーツに向き合うよう確認する研修会を開いています。本当に強い選手は自己管理能力も自己教育能力も高いものです。考える・決断する・行動する力が必要で、社会に出ても試される力です。勝利(成功)したい気持ちを持ちつつ、道徳的な判断と行動が出来る強さをスポーツから養い、立派な人に育てて欲しいのです。今後も研修会の効果が続き他校や世論まで波及することで、スポーツの健全な利用が広まることを願うものです。

(所員／しまたに・せいじ)

研究余滴

2018年度 国際経営研究所主催 第1回公開講演会 開催報告

杉田 弘也

6月19日、東京新聞社会部の望月衣塑子氏による公開講演会が開催された。森友学園や加計学園など、安倍政権の問題を官房長官定例記者会見で追及していることで勇名を馳せている望月氏の講演は、自らの記者としての経歴も含め、エネルギー全開の100分間だった。

いまが旬とあっていい森友・加計問題に関してはごく短い時間になってしまて必要不可欠であるはずの「適切な過如何に軽視しているかをあらためて1970-80年代のアジアの開発独裁政権法改正はもちろんのこと、安全保障やねられてきた議論がないがしろにさ政策として武器輸出が進められようとしていること、研究費の出所などの問題で私たち大学の教員・研究者も感覚を研ぎ澄ます必要があることを痛感した。



の話がやはり中心となり、武器輸出に
ったが、現在の政権が民主主義にとっ
程 (due process)」や「法の支配」を
認識した。これは私感であるけれど、
さえ想起させる。そのような中で、憲
市民の権利に関するこれまで積み重
れていること、その一環としての産業

また、今後の進路を考える学生にとって、望月氏の新聞記者としての経験に基づく講演は参考になったであろう。

2018年度国際経営研究所の活動について(続報)

■ 研究活動(共同研究プロジェクト/新規3件)

- ❖ 傍系ナショナルアイデンティティの国際比較研究
代表者：児島 峰
- ❖ 競技パフォーマンス向上に関する測定の実践と体力指標の作成
代表者：石濱慎司
- ❖ 国際社会の統営理論(一般グランドセオリー)の研究
代表者：石積 勝

場 所：ひらつかキャンパス 6号館 210教室
テーマ：社会人そして経営者とは
講演者：栗田武明氏(本学部卒業生)
(株式会社栗田商会 代表取締役社長)

■ 広報活動

- ❖ アクティビティを国際経営研究所HPで発信
<http://iibm.kanagawa-u.ac.jp/>
- ❖ 「国経研だより」で組織内外PR

■ 出版活動

- ❖ 国際経営フォーラムの刊行
『国際経営フォーラム』NO.29
特集テーマ：『伝統と革新』
申込締切：6月29日、原稿締切：9月28日

❖ Project Paper(共同研究成果報告書)の刊行

■ 公開講演会開催

- ❖ 2018年度第1回公開講演会(上記詳細掲載)
日 時：2018年6月19日(火) 15:20-17:00
テーマ：武器輸出と日本
講演者：東京新聞 記者 望月衣塑子氏

❖ 2018年度第2回公開講演会

日 時：7月16日(金) 11:00-12:40

■ 地域連携 平塚市との協働事業を推進

以上

2018年6月7日学内にて撮影



今年度もカルガモの親子が大学内を移動し、教職員・学生を癒してくれました。

編集後記

第58号をお届けします。御寄稿下さった所員の皆様に御礼申し上げます。前号に引き続き、共同研究プロジェクト、公開講演会など、新年度の業務の一端を報告いたします。研究活動のご参考になれば幸いです。(Y)